

地域包括支援センター運営協議会の会議結果報告

1. 会 議 名	平成 28 年度第 3 回松阪市地域包括支援センター運営協議会
2. 開 催 日 時	平成 29 年 2 月 27 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
3. 開 催 場 所	松阪市民活動センター (カリヨンビル 3 階) 会議室
4. 出席者氏名	(委員) 志田会長、津田副会長、小林委員、岩瀬委員、高橋委員、三宅委員、竹田委員、高木委員、殿村委員、山口委員、三宅委員 計 11 名 (傍聴) 松阪保健所 星野次長 (地域包括支援センター) 第一地域包括支援センター: 3 名、第二地域包括支援センター: 1 名、第三地域包括支援センター: 1 名、第四地域包括支援センター: 2 名、第五地域包括支援センター: 1 名 (地域振興局) 飯高振興局地域住民課寺脇課長、飯南地域振興局地域住民課竹内課長、嬉野振興局地域住民課北村課長 (事務局) 高齢者支援課石川課長、介護保険課田口課長、 高齢者支援課松田担当監、西山担当監、森本主任、大西主任、稲垣係員、奈良係員
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	1 名
7. 担 当	松阪市健康ほけん部高齢者支援課 TFL 0598-53-4099 FAX 0598-26-4035 e-mail kourei.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 平成 28 年度事業経過報告について
2. 平成 29 年度運営方針案と新しい事業について

議事録

別紙

平成28年度第3回地域包括支援センター運営協議会議事録

1. 開催日時：平成29年2月27日（月）午後1時30分～3時30分

2. 開催場所：松阪市市民活動センター

3. 出席者

(委員)

志田会長、津田副会長、小林委員、岩瀬委員、高橋委員、三宅委員、竹田委員、高木委員、殿村委員、山口委員、三宅委員 計11名

(傍聴) 1名

(地域包括支援センター)

第一地域包括支援センター：3名、第二地域包括支援センター：1名、第三地域包括支援センター：1名、第四地域包括支援センター：2名、第五地域包括支援センター：1名

(地域振興局)

飯高振興局地域住民課寺脇課長、飯南地域振興局地域住民課竹内課長、嬉野振興局地域住民課北村課長

(事務局)

高齢者支援課石川課長、介護保険課田口課長、

高齢者支援課松田担当監、西山担当監、森本主任、大西主任、稲垣、奈良

4. 議事録

事務局	第3回地域包括支援センター運営協議会を開催します。 植嶋委員、高木委員欠席。 民生委員児童委員、任期切れのため大津委員から高橋委員に代りました。
高橋委員	あいさつ
会長	運協も平成17年から行っているが、当初包括の職員も三職種15人ほどであったが、今では約50人ということで増えた。松阪においては素晴らしい運営体制ができている。包括の職員においては健康に気を付けて、これからも頑張っていたきたい。報告事項2をお願いします。
事務局	報告事項説明。 1. 松阪市高齢者保健福祉計画策定委員会の実施について、第1回目を2月13日に開催。3年毎に計画の策定が必要。今回は地域包括システムの具体的な取り組みをさらに進める計画づくりになると考えている。 市民やケアマネジャーに向けてアンケート調査を実施する。調査は、地域包括支援センターに対する市民の認知度や在宅医療、介護に関する質問など含まれる。 内容は多岐に渡っているが、アンケート結果は3月に実施するので、5月頃にはまとめる予定。 2. 認知症のケアパス、市民の方に分かりやすい認知症の症状、相談窓口など掲載するガイドブックを作成する予定。その作成案を今年度検討し、来年度印刷する予定。

	<p>3. 生活支援コーディネーターについて、新しい総合事業、地域づくりに関わっていただく流れで取り組みをする。包括支援センターが中心になっている内容です。</p>
	<p>4. 松阪医療、顔のみえる関係づくり、在宅医療、介護の連携を推進していくために連携のための拠点づくりを考えている。関係機関と各病院の支援の状況の聞き取りや医師にアンケートを実施し取り組んできた。</p> <p>5. 多職種勉強会について、今年度2回実施した。</p> <p>6. 地域包括ケア推進会議と運営幹事会を実施し、認知症や在宅医療・介護の充実に向けた検討を行ってきた。在宅医療、介護の連携の相談窓口の検討。</p> <p>8. 地域包括支援センターと在宅医療、介護連携の相談窓口、拠点を市内に1か所設置する。具体的に病院などそれぞれの機関の役割を整理し、拠点づくりでどのようなところを担っていくのかを進めていく。</p> <p>「在宅医療を考える」冊子を作成した。</p>
会長	<p>平成28年度事業経過報告について</p> <p>地域包括支援センター運営状況（資料1）、地域ケア会議の開催状況（資料2）について、事務局説明願います。</p> <p>自己点検票については第一から第五包括でお願いします。</p>
事務局	資料1の説明
会長	委員のご意見、ご質問がありましたらお願いします
委員	<p>どれだけのことをしてきているのかと毎回思う。職員数も増えたこともあるが、28年度の地域ケア会議の開催の目標を掲げて、必要な社会資源の開発、こういった社会資源あるのか見えてきていると思うので、それがあれば聞きたいです。</p>
包括管理者	<p>資料で地域課題が出てきているが、住宅密集地から農村部まで地域差がある。職員は長くやっている職員が多く、地域の方との密接な付き合いがあり、地域ケア会議などの機会を通じて地域課題が明らかになっているものがある。</p> <p>ただ包括支援センターだけでは解決できないものがあり、地域ケア推進会議にあげているものがある。市全体で検討する課題もあるが、課題についてはこれからだと思う。</p>
会長	<p>地域ケア会議だけでなく、地域包括ケア推進会議もある。いろいろな社会資源に対する問題もあるので、出していただけたらと思う。</p>
委員	<p>第三包括の動きをみていると、モデル的には良い地区ではないかと思う。</p> <p>高齢者の就労、作物生産でしようが、それぞれお仕事を持ってみえて、三世代家族が多く、親戚の方も近隣にいる地域と理解している。</p> <p>地域の寄合や共同作業も多い、人と人との関わりが第一包括の報告もあり、全般的に地域課題が出ているところは、集約した取り組みがある。地域課題の中でも、その地域が持っている課題を各包括が取り上げると面白いかと思う。</p> <p>資料で総合相談の結果について、その地域の高齢者に対する割合がどうか、経年的に出してはどうか。</p>
会長	事務局、経年的なところはどうですか？
事務局	<p>どういう経緯で一人一人が包括支援センターまで相談に来ているのか、といった経緯が違おうと思う。経年的な表にするとところまでしていない。</p> <p>相談の中身としてこういった傾向にあるかみると、各包括に大差はないので今回は円グラフで示した。</p>

	委員から言われたことについては、もう少し吟味して検討したい。
委員	<p>年々煩雑になってきて、各地域での役割を考えて計画して行っている。これからも事業が増える一方なので整理してやってほしい。</p> <p>資料1で集いの場が増えてきているが、お世話をするグループも大変だが、地域で支えていくシステムを考えいくともっと広がるのではないかな。</p>
委員	<p>独居老人、高齢者世帯が増えて包括だけでは問題の把握は難しいと思う。民生委員も対象年齢の範囲が広く、地域の集まり、自治会単位で問題点をあげていく、包括に相談に行けば良いができない。問題点をあげて、それを包括に情報としてあげるようにしていきたい。</p>
委員	<p>公民館で65歳以上の女性の方が集まっているが、次第に人数が減ってくる。どうしたらいいか考えている。</p>
委員	<p>包括だけで生活をみていくことは大変だと思う。長い間の中で包括が地域に馴染んでいる印象を受けている。</p>
委員	<p>包括支援センターの職員が地域に密着しながらやっている。いろんな取り組みをしていたのはわかっていたが、資料を見て驚いた。数字で分かりやすくなっているが、課題があってその成果に対してどういう結果が生まれたのか分かればありがたい。</p> <p>課題をこなしてどういう形のものが住民に対して成果が上がったのか、そういう事例があれば聞かせて欲しい。</p>
会長	<p>包括は一杯一杯の仕事をしているが、来年度からの方向性について聞きたいです。</p> <p>資料3の自己点検票について、第一から第五までお願いします。</p>
第一包括	<p>総合相談への丁寧な対応、主治医をはじめとする多職種連携を当初から大切にしている。その結果が継続の相談件数の多さや地域ケアネットなど特色として表れている。</p> <p>今回の自己点検票でできていない項目にチェックを入れた項目は、周知活動、地区診断、家族介護者の交流事業でした。</p> <p>周知活動と地域診断については、取り組んではいるものの不十分であるという反省を込めてチェックを入れている。</p> <p>家族介護者交流事業については、老人会、商店街組合、介護事業所など様々な機関が、この事業に取り組んでいることから、包括自らがこの事業に取り組むというよりも、地域内の社会資源を大切に育てていこうと考えている。</p> <p>今年度、重点的に取り組んできた事業は、地域ケア会議とキッズサポーター養成講座です。地域ケア会議については、民生委員の方をはじめ地域住民からの相談に対して迅速に対応し個別課題、地域課題を関係者や地域住民と共有するためのツールとして活用している。</p> <p>キッズサポーター養成講座は、まちづくり協議会や近隣の施設との共催で開催する形をとっているのが、私たちの特徴です。</p> <p>この手法により私たちの事業が地域包括ケア体制を構築していくうえで欠かせない事業に育っている。</p> <p>新総合事業の移行に向けた準備も高齢者支援課と共に時間と労力をかけた。来年度からの新総合事業が円滑に進むように願っている。</p>
第二包括	<p>職員の体制について11名だが1名育休で実質10名で事業を行っている。</p>

第二包括	<p>新規の職員4名で、カンファレンスをしっかり行うことで、複数の職員で関わるケースも多く、全員で判断を必要とするケースなどあり工夫して行っている。</p> <p>3か月に1回は、年度の計画の進捗状況を把握している。毎週職員間のミーティングを行っているが、議題が多く困難なケース、新総合事業の把握を職員間でしっかり行っている。進捗状況の把握を全体で行う時間が取れなかったことが反省です。職員間で話し合いをしながら進めていくことを今年はしました。</p> <p>住民の方が入りやすい環境を考慮し、法人と考えている。</p> <p>実態把握の訪問、職員2人の組で5グループで毎月一度訪問に出かけている。チェックシートと基本情報を確認するが、その中で重点的に困りごと、地域の中で集いの場がどういったものがあるか包括でも知らない。移動販売、地域にどんな販売来ているのか、集いの場があるのか、職員で確認しまとめるようにした。</p> <p>認知症高齢者安心見守り隊ネットワークで、昨年三雲の天白で「見守り声掛け訓練」を実施した。今年は三雲の小舟江で「見守り声掛け訓練」を実施した。今回は地域内にあるプライスカット、ガソリンスタンドなど協力いただき、店の人に対応していただいたり、お客の方に対応していただいた。3月10日に反省会を行う予定です。来年は小野江で実施する予定です。</p> <p>課題として松阪では三雲地域で行っているが、他の地域から見学に来たいという方が見え、80人ほどの人数となってグループが多くなった。</p> <p>見守りの声掛け訓練、第二包括内の見守り隊の方と自治会、民生委員、松阪市でお手伝いいただいた。三雲で活動できているのは、見守り隊みくもの代表の方がいろんなところに声をかけていただき実施している。リーダーの引継ぎを視野に入れていかないとこの活動が途切れてしまうことになるので、不安を感じている。</p> <p>介護予防の支援、3回シリーズでしている。広報が難しく人数が集められなかったことがある。</p> <p>小さい場所ですメリットはまとまりやすいということ。</p> <p>米ノ庄と鵜で新グループが立ち上がった。3回シリーズの教室、サポーター養成講座を行うサポーターが自主グループを支えていく。セットでしていく形で行ったが、地域からの声があがっていない所で3回シリーズを行っていてもグループができるまでいかない。</p> <p>今後はどうやって自主グループが自分たちのところでほしいといった声をあげていただくか、力入れて考えていきたい。</p> <p>サポーターのグループということで結成していて「AIMU」という名前で、サポーター同士がグループを作って、困っていることなどを話したり、今やっていることはどんなことなのか、情報を共有するグループが立ち上がっている。</p> <p>グループも力を入れてしているが、サポーターが活発だと温度差があったり活動の内容、方向性の違いが出てきている。</p>
第三包括	<p>業務体制について、殆どの項目で達成した。</p> <p>総合相談支援について、過去2年間の相談を分析し相談内容を把握した。相談の多い民生委員に動向を報告し今後につなげることができた。</p> <p>今後は地域ごとの相談の傾向を分析し、データに示せるように取り組んでいきたい。</p>

<p>第三包括</p>	<p>センターの周知について、住民協議会や老人会、ふれあいサロン、飯高サテライトなど地域住民が集う場に積極的に出向き、包括の事業内容や職員の紹介チラシを配布して、センターの周知をした。</p> <p>今年度から松阪社協のホームページで介護予防教室や実施した事業などをタイムリーに発信してセンターをより身近なものとしてとらえていただくように努めた。</p> <p>地域ケアネットワークの構築について、昨年度に引き続き飯南、飯高地域の民生委員の例会には出席し、包括センター内のトピックスや事業内容について説明した。</p> <p>そのことにより連携が密になり、地域情報が入りやすくなり相談ケースにつながるようになった。</p> <p>地域ケア会議では、本年度は孤立死を防止する見守り体制づくりを目的に開催した。普段見守りをしている民生委員や警察、消防、新聞配達業者、郵便局など顔のみえる関係づくりにつながった。</p> <p>今後も定期的に会議を開催できたらいいと考えている。</p> <p>エリア内の介護保険サービス事業所が閉鎖していく傾向があり、住民が介護保険のサービスを満足に受けることが難しい状況になりつつある。</p> <p>移送のサービスの問題など山間部、過疎地において抱える地域課題が多く出ている。そういった課題を抽出しながらできていけばいいと考えている。</p> <p>認知症施策に関して認知症サポーター養成講座を8回開催し、今年度は建設会社や郵便局など企業向けに力を入れた。認知症の関心を高めるために三重大学の佐藤医師の講演会を開催し、100人を超える方に聴講していただいた。</p> <p>包括的、継続的マネジメント支援について、今年度は医療と介護の連携という視点で医療機関との連携づくりを地域の医師とケアマネジャーの勉強会を月2回開催し、個別ケースの相談がしやすいように体制づくりをした。</p> <p>地域の医師とエリア内の在宅医療を考える機会を作った。</p> <p>介護予防ケアマネジメント、殆どの項目で達成できた。</p> <p>介護予防の支援について、3回シリーズ介護予防教室や集いの場の支援のためにできるだけ時間を使って地域に出向くようした。これらを通して全体的に60歳後半から70歳前半の比較的若い年齢層が多数参加するようになった。</p> <p>介護予防教室や集いの場で、自分たちの健康を保ちたい元気でいたいという気持ちを大事にしたいと、介護予防講座をとっていただいている印象がある。</p> <p>介護予防いきいきサポーター養成講座では初級、中級の講座を開催した。講座の受け皿として集いの場を作り活動している。今年で16グループが結成した。月に1~2回活動しているが、定期的集まることを楽しみにしている。参加者同士の安否確認、状況の把握につながり、地域の情報交換の場となっている。</p> <p>この自主グループは参加者のメリットだけでなく、包括側の貴重な情報をキャッチする場になっている。お互いになくてはならない場になっている。</p> <p>6年前からのグループで参加者同士のまとまりが一層強くなり、参加者の中で月に1~2回集まるものと個々に芽生え成熟度は増していると感じている。</p> <p>いきいきサポーター養成講座初級、中級を終了して、元気アップリーダー養成講座を受けられた方がエリア内で5名いる。このリーダーが活動するグループが立ち上がった。</p> <p>月に1~2回地域に出向いて介護予防の活動している。</p>
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>第四包括</p>	<p>今年度の目標は、地域包括システムの円滑な地域づくりの推進と連携を行う。 住民目線で地域課題は何かを今年度は目標とした。 包括が民生委員、自治会、住民協議会などの情報共有、課題を自己点検票であげた。 一人暮らしが増えている中で関係する民生委員、ケアマネジャーそれぞれが情報を持っているが、横のつながりができていないということが課題としてあがってきた。 地域ネットワーク会議の構築が課題としてあがってきた。 センターの周知、センターに来ていただく方が少ないので、実態把握を活用しながら、介護予防教室を通して啓発していきたい。 総合相談の分析、まだまだ不十分。地区診断、センターが情報を持っているので活用しながら総合的にやっていく。 地区診断を実施したが職員の意識が低かった。総合相談の個々の対応はできているが、それに対する地域づくりの目線が必要になってくる。 啓発活動、一般介護予防に参加した方に実施した。 事例検討、勉強会、介護支援専門員が抱えている支援困難事例と一緒に関わった。 啓発が課題であったが、地域の方に声掛けをすると参加していただける。 自治会、住民協議会、老人会の協力を得ると参加者が多くなって良かったが、まだまだそこまで行っていなかった部分がある。来年度は自治会と介護予防の取り組みを行ってきたい。 地区の集会所、公民館で開催しながら取り組んでいく。サポーター、自治会の協力をいただきながら実施していく。 中京大学の樋口先生に指導を受けながら行った。 社会資源の把握、安心見守り協力隊、訪問しながら高齢者に対する取り組み。全地区行けなかった事業所の近く周辺、重点的にしていく。</p>
<p>第五包括</p>	<p>業務推進体制について、包括支援センター職員としての経験不足もあり、業務の中で地域住民や関係機関に迷惑をかけてしまったが、現在は少しずつ独り立ちができるようになり、地域に積極的に顔を出している。 研修会も新人職員が多かったため12月末で37回参加し、自己研鑽のため意識を高めている。次年度に向けて頑張っていきたい。 集いの場を創設するにあたり介護予防の充実を図りたいため、3月から非常勤の看護師が配属される。 業務の進捗状況は年間スケジュールに沿って順調に進めることができた。 施設環境は職員の増員や来客者のために近隣の駐車場を借りている。 総合相談業務については、職員が不在にならないよう相談対応ができるようにした。新人職員はベテラン職員と相談に応じ相談技術を磨いた。 出張介護相談はタッチパネルを同時開催し、相談者はごく少数であったが次年度に続けていきたい。 広報誌を年4回発行し包括の事業の報告や今後の予定、健康管理や認知症予防関係を掲載した。広報誌を見て予防教室の申し込み、問い合わせ、見守り協力店の問い合わせがあった。</p>

第五包括	<p>実態把握は、訪問件数を増やしている。介護認定を持ちながら介護サービス未利用者、非該当者へのアプローチは電話で対応しているが、拒否が多く状況把握に至っていない。</p> <p>宇気郷地区の医療問題に関して松阪地区医師会と連携して地域住民と話し合いを持ち必要な医療につなげている。</p> <p>認知症サポーター養成講座は10回以上、安心見守り隊養成講座は7回以上、フォローアップ講座は4回開催し、地域住民へ認知症への関心を高める工夫をした。</p> <p>エリアにある認知症カフェは包括が発行する広報で紹介したり、支援したりした。</p> <p>虐待は行政と速やかに対応し啓発講座も5回開催した。消費者被害啓発は5回、成年後見制度啓発は7回実施した。</p> <p>成年後見制度の市長申し立ては2件あった。</p> <p>包括的継続的ケアマネジメント支援について、関係機関、医療機関との連携は、民生委員や3病院の地域連携室との相談は増えている。3病院からは重篤な状態でありながら、受診につながっていない人の訪問依頼や緊急通報装置の12時間作動していなかった訪問では早期に発見することができた。</p> <p>介護支援専門員に対しては、環境変化に伴い最後の状況が変わってきた時の相談を一緒に考えたり、総合事業に向けての相談件数が増えてきている。サービス事業者からも総合事業の相談が増えてきている。</p> <p>介護予防ケアマネジメントについては、モデル事業として始めた総合事業対象者も14件スムーズに移行した。</p> <p>高齢者の集まる場では、元気はつらつチェックシートを実施し必要に応じたアドバイスを実施している。</p> <p>今年度から始まった3回シリーズも地域に満遍なく実施し計画通り進めることができた。</p> <p>昨年度に比べて口腔、栄養の予防教室をした。参加者は常連の方が多く新規の方が少ないので、新規が増えるように啓発をしていきたい。</p> <p>今年度は老人会の予防教室が参加者が権利擁護関係と二分したため、開催が8回以上できなかった。次年度も介護予防教室を取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>豊富な内容を報告していただいた。</p> <p>まとめをお願いします。</p>
委員	<p>第四包括の弱い動きが見えてきた。地域づくりの中で地域により地域包括ケアシステムの認知度が違う。言葉が難しいところがあるが地域のいいところ探しです。とにかく良いところを探したらいいと話をしている。</p> <p>地域包括システムを作っていく中で地域ケア会議が有効。個別的な課題が出た時に迅速に会議が開けるかどうかは課題です。</p> <p>認知症サポーター、人材育成ということで取り組んでいるが、11小学校すべてに行くことになった。中学、高校生が小学生に出向いて教えるとか、できると良いと思う。</p> <p>24時間の安心を考えると包括支援センターがどこまで対応できるか、中長期的にはどういうシステム、人材がどれくらいいるのか、考えていかなければならない。</p> <p>ケア会議などでネックになるのが個人情報の取り扱い、行政で良いアイデアを出せないか、安心して会議が進められるようなシステムづくりを考えていきたい。</p>
会長	<p>自己点検票の報告が終わりました。ご意見ご質問がありましたらお願いします。</p>

委員	情報提供をしたらできる限りのフィードバックをして欲しい。
会長	平成28年度事業報告の協議を終わります。平成29年度運営方針案について、事務局説明をお願いします。
事務局	運営方針案の説明（資料4参照）
会長	平成29年度における重点目標を説明していただいた。 平成29年開設、平成30年本格実施予定の在宅医療介護連携に係る相談窓口、連携拠点が来年立ち上がる。まだ詰めなければならないこともあるが、現状について小林先生、ご説明をお願いします。
委員	立ち上がるのが平成30年4月、予算の問題など考えると半年くらい前には形は作り上げようと動いている。平成29年9月、10月を目途に人員を配置し仕事ができる体制にしていこうとしている。 職員として配置するのが医師会と市の方から出して職員を充てる。 医療系のナース、保健師、事務職でまず動く流れになっている。医師会も人員を確保する。半年かけて勉強もして平成30年4月に臨みたい。 拠点の場所は、医師会が新館を作っていて3月には完成する。その医師会の新館の1室を使用する方向で動いている。
会長	松阪市を含めて広域的な範囲で在宅医療介護連携になる予定です。 松阪の地域包括の業務と連携拠点との業務のすみわけと連携のような仕事を行政中心に、或いは医師会と行政、運協も含めて考えていかないといけないことになる。 資料5 総合事業の説明していただきます。
事務局	資料5 説明
会長	運営方針案と総合事業についてご質問をお願いします。
委員	新総合事業の介護予防の集いの場、シルバー人材センターが関わっているがシルバーの人材育成はされているのか。備品の貸し出しは4月からできるというのは？
事務局	平成28年度からシルバー人材センターに委託している。その契約の中で貸出という項目を入れている。備品類については数がそろっていない部分があるが、依頼があればお貸しするようにしている。 これからシルバー人材センターにお願いしたいのは、生活支援の部分を担っていただきたいということで、29年度には援助的なお手伝いをさせていただく予定です。
委員	在宅介護支援センターのようなもの、もう少し軽いものをシルバー人材センターが担うのですか？貸出など住民に周知する分かりやすいパンフレットはあるか？
事務局	総合事業のパンフレットはあるが、具体的に書いたパンフレットは準備中です。
委員	4月から難しいということですか。
事務局	電話等問い合わせていただいたら大丈夫です。シルバーにお元気応援室があります。そちらにお問い合わせください。
委員	知らないで電話もできないので周知はどうしているのか
事務局	3月の広報で、シルバー人材センターのお元気応援室を窓口にして、貸出グッズを紹介する。貸し出しについての書類は準備中です。
委員	自治会に集いの場を立ち上げるということで計画書を提出している。まだ返事が返っていない。年数回で立ち上げる予定をしているが、人的支援は、年数回であっても講師は派遣していただけるのか。

事務局	第五包括と情報共有した中で支援ができると考えている。市の方から高齢者支援課の職員、出前講座、市の広報広聴係で受け付けているので活用していただきたい。
委員	保険と書いてあるが万一事故があった時のものですか。自治会の協力ということですが、もし自治会で協力いただければ自治会保険で扱えるが。
事務局	自治会との協力の下でされる場合は、自治会の保険で使っていただけたらと思う。又、リクレーションで遠出もする等は、その場を離れて活動する場合は一日のリクレーション保険等があるので運営主体で考えていただきたい。
委員	多くの業務がある中で地域診断をされて総合事業が始まって、住民の方にわかりやすく周知するのが、現場でできていることが大事になってくる。と感じて資料を見ている。
委員	たくさんのことに取り組んでいる中で29年度の重点目標を見ていると大事だと思っている。各包括地域の事情があると思うが、もう少し知る機会があれば良いと思う。ケア会議をみていると精神疾患の方が多く困っていると思うが、医療職が手助けできることがあると思うし、地域包括によって違いがあったり、困っていることがあれば積極的に聞かせていただく機会があると良いと思う。
委員	市議会が開催されており、地域包括ケアの質問もある。各議員の方も地域包括ケアがどこまで進んでいるのかといった興味を持っている。 地域包括支援センターが中核機関として大変な仕事をしていることを危惧している。そう言ったことを説明して地域の課題に対応し、総合事業という新しい事業もしていかなければいけない。 平成29年度予算に影響され、平成30年度にということになっているのでご協力をお願いします。
会長	在宅医療連携拠点ができても地域包括支援センターが要であることは間違いない。拠点は広域的なものになるが包括支援センターの仕事が増えている。肩の荷が少し下すことしかできないかわかりません。 医師会館にできるので、行政と協力してやっていきたい。 その他で事務局ありますか。
事務局	ありません。
会長	次回の開催は、平成29年度第1回になります。何月頃ですか？
事務局	6月頃だと思います。